

●会員の中森康友さんが、南房総(千葉県)の観光・文化振興に頑張っている。

(栗山定幸/記)

南房総には、2006年に富浦、富山、白浜、千倉、丸山の4町と三芳村が合併して、南房総市が出来た。これに館山、鴨川、富津の三市、鋸南町が加わり、同県の中部、北部とは気候も自然もがらりと変わる温和な観光圏が形成されている。

東京からレールで約1時間で久里浜。さらに東京湾フェリーによる40分のミニ・クルーズで、南房総のど真ん中に入る。

かつての「東京と、その奥座敷熱海…」といった感じに似ていると言ってよい。

そこには燦燦とした太陽、三方に広がる海、季節ごとに様々な表情を見せる花々、山海の美味、そして温泉もある。もちろん旧官幣大社安房神社を始め、数々の文化遺産も散在する。館山市には、外洋豪華クルーズ船も停泊できる埠頭も整備された。

しゃれた和洋レストラン、ホテル・宿泊施設もそれぞれの地域にある。鋸南町の「紀伊国屋」など、家族づれで一泊したい温泉旅館だし、レストラン「季の音」(ときのね)など“千葉のイメージ”を一新する。

四市1町の結束を高める南房総宿泊・滞在型観光推進協議会も、東京湾フェリーを事務局に発足した。

しかし大きな課題が、あった。

東京にとっての奥座敷熱海のような知名度、歴史が、未だ何と言っても浅い。例えば北関東の日光、東照宮といった、中心になる存在、軸が無い。

そこで中森さんが、キャリア数十年の中で培った、旅行・観光・レジャー関係ジャーナリスト、新聞出版関係の人脈を総動員して、“南房総応援団”を組織し、勉強会、現地視察取材などを進めているのだ。各地域の中森さんに対する信頼は、絶大だ。その中森さんは、将来を見据え、横浜・横須賀道路の終点の三浦半島南部と南房総を一体化した観光・文化圏も考えている。

東京から1時間。
フェリーにミニ・クルーズで、新しい体験をどうぞ。



鋸南町の「紀伊国屋」(左)とレストラン「季の音」



安房神社